インフルエンザの発生状況(富山県)

【第 41 週（ 2026/10/5～10/11 ）感染症発生動向調査速報値（ 2026/10/14 時点）】

定点医療機関※新規患者報告数： **639** 人、定点医療機関当たり **13.31** 人

※急性呼吸器感染症定点（旧インフルエンザ/COVID-19定点、小児科29定点、内科19定点）

図1. 患者報告数の推移（富山県）

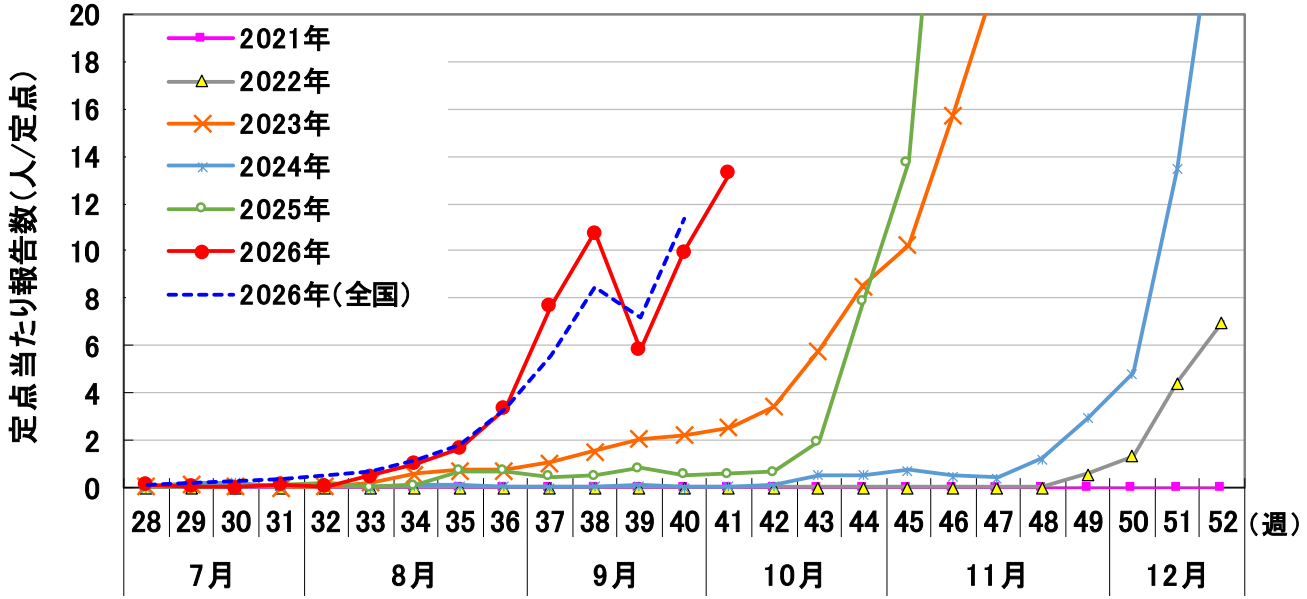
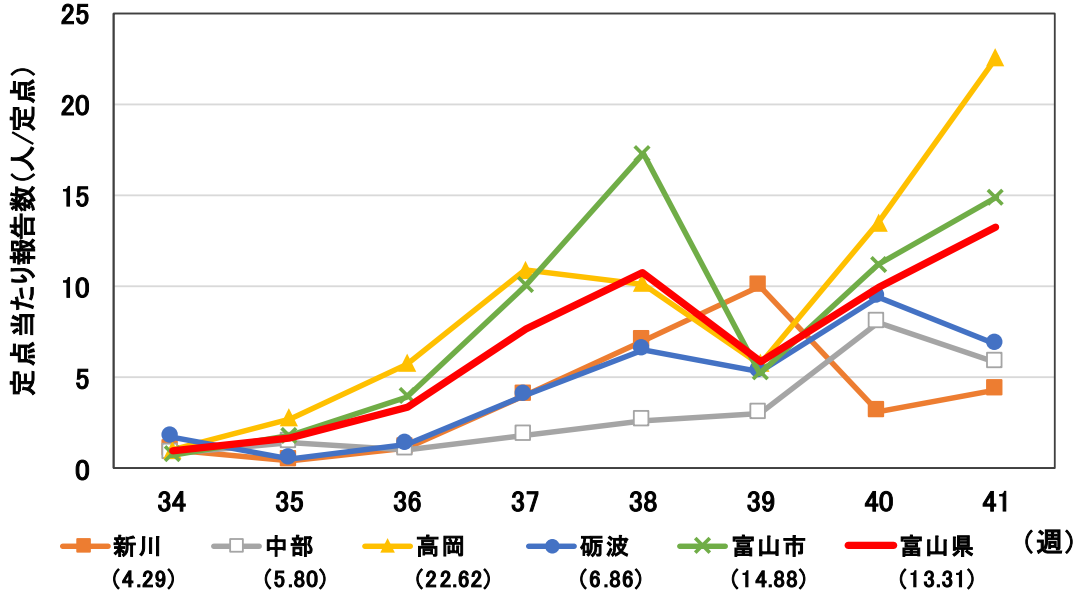


図2. 厚生センター・保健所管内別患者報告数の推移



※（ ）内は今週の定点当たり報告数

- 富山県の患者報告数は今週13.31人/定点となり、先週（9.96）から増加した。
  連休前の第38週（10.77）の報告数を超え、注意報レベルの基準である10.0人/定点を再び超えた（図1）。
- 厚生センター・保健所管内別に見ると、砺波、中部管内で減少した一方、それ以外の管内で先週から増加した。
  高岡、富山市管内では、注意報レベルの基準の10.0人/定点を超えている（図2）。

図3. 年齢階級別インフルエンザ報告数の推移（富山県）

図3-1. <20歳

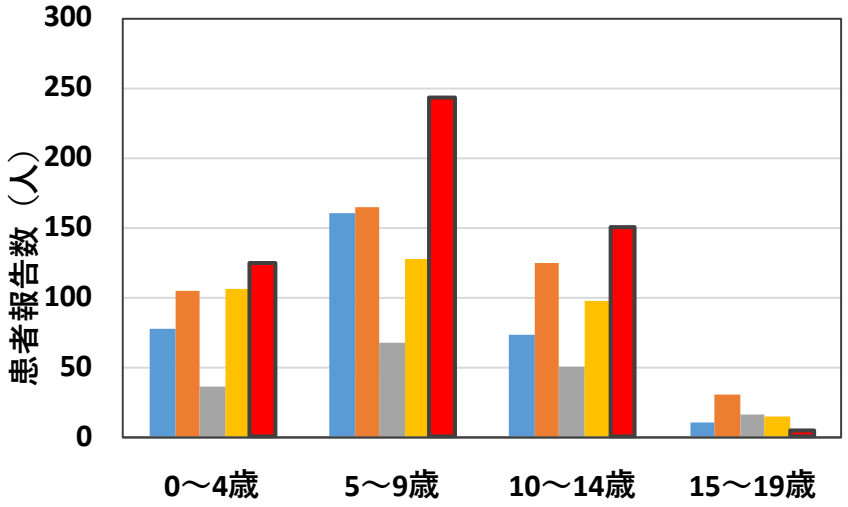
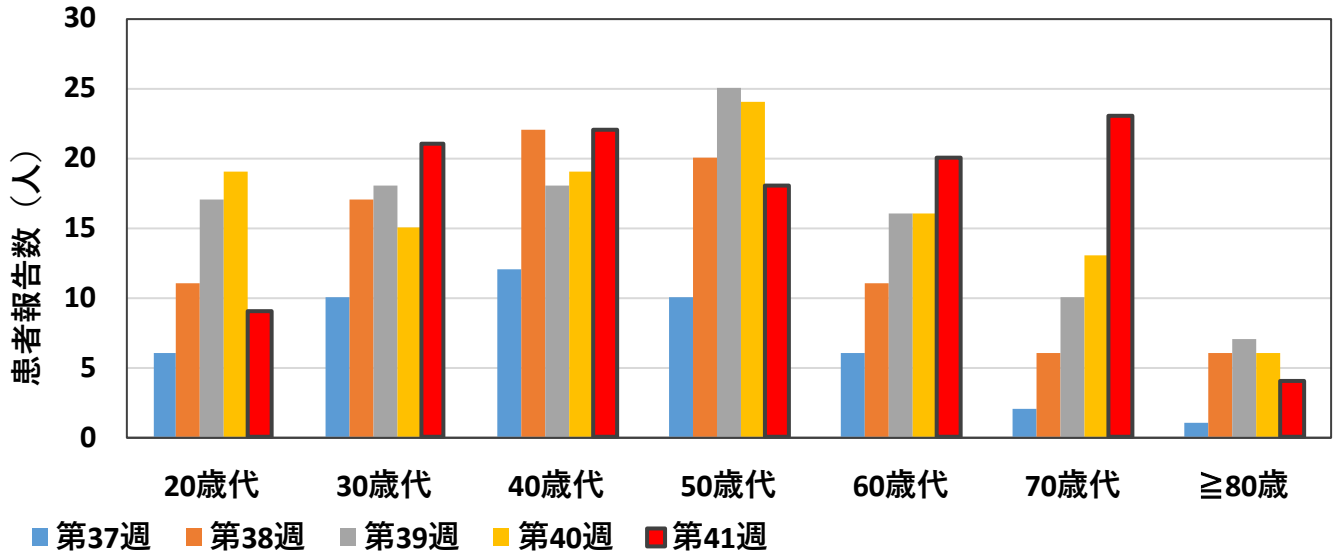


図3-2. ≧20歳



- 0～14歳、30～40歳代、60～70歳代で先週から増加した。

※定点医療機関は小児科が多い（小児科：29定点、内科：19定点）ことから、小児の報告数は成人と比較して過大評価となることに留意する必要がある。

図4. 都道府県別インフルエンザ報告状況（第40週）

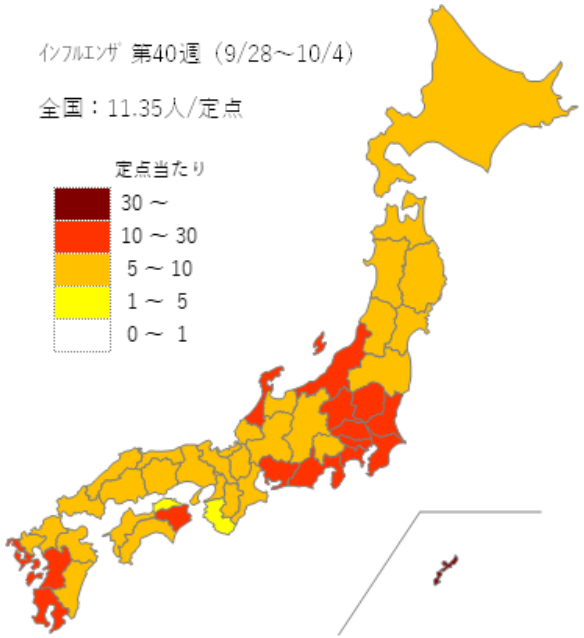


図5. インフルエンザ入院サーベイランス
患者報告数の推移（富山県）

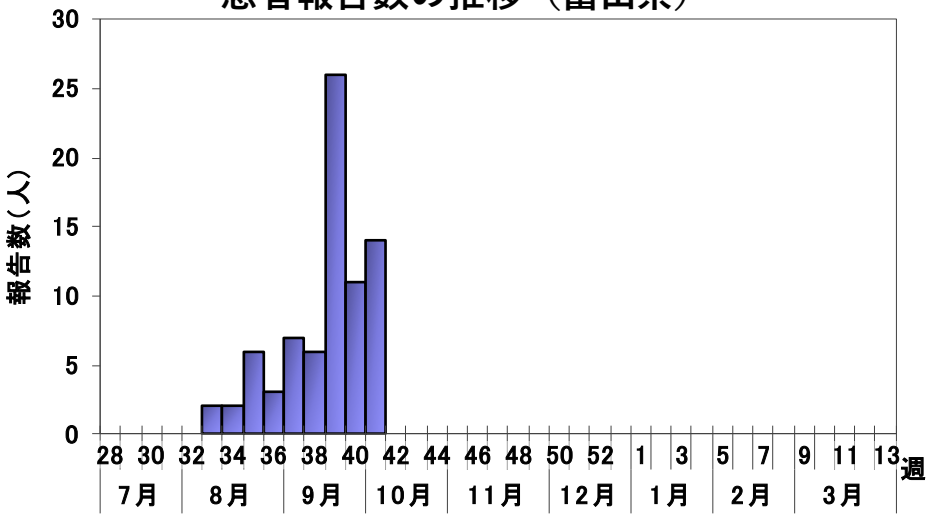
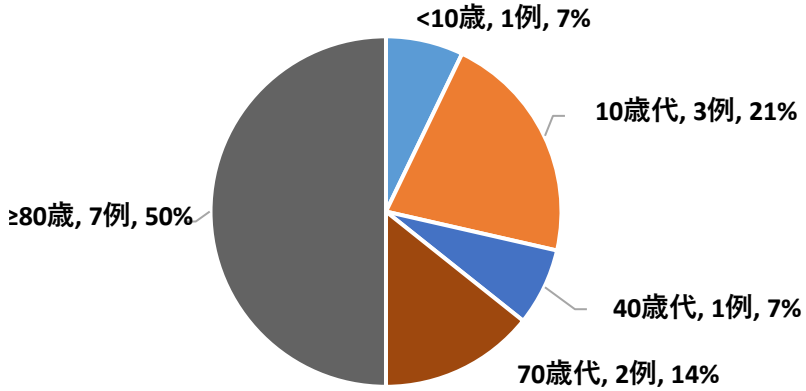


図6. インフルエンザ入院サーベイランス
年代分布（第41週、14例）



- 全国では第40週に11.35人/定点となり、第39週（7.17）から増加した。
都道府県別にみると、15都県で注意報レベルの基準である10.0人/定点を超え、1県で警報レベル開始基準の30.0人/定点を超えている（図4）。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランスでは、今週14例の報告があり、先週（11例）から増加した（図5）。
- 入院患者の年代は、10歳未満、40歳代が各1例、10歳代が3例、70歳代が2例、80歳以上が7例であった（図6）。
- 県内の患者報告数は第39週に一旦減少した後、先週から増加し、今週は連休前のレベルを上回り注意報レベルの基準である10.0人/定点を再び超えた。特に15歳未満の患者報告が増加し、学級閉鎖等の報告もあることから（富山県インフルエンザ関連情報）、学校等での感染や成人への感染拡大が懸念され、今後の発生動向を注視する必要がある。